

【総合的な学習の時間】 第11回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 探究活動を進めよう

2. 本時の概要

本時は、夏休み前の最終授業として、休み期間中の自律的な調査活動に向けた「探究計画書」の完成と、情報収集の質を高めるための理論を習得する回である。

1時限目前半では、スクールタクトを用いた「LIFEログ」の入力を通じて、1週間の学びを振り返る習慣を継続する。後半では、9月の「探究計画報告会」を見据え、探究の骨組みとなるリサーチクエスション(RQ)、仮説、および具体的な検証方法の立て方を、具体的な事例(JR九州のD&S列車や自動販売機の例など)を交えて学習する。

2時限目では、各グループで「探究計画書兼報告書」の(1)～(4)の項目(テーマ、背景、目的・意義、研究方法)を具体化させるワークを行う。あわせて、情報収集支援ツール「RefNavi」のカスタムタグ機能を活用したチーム内での文献共有体制を整える。最終的には、担当教員からのチェック(GOサイン)を得て、夏休み中に最低1人1つの文献調査を行うアクションプランを明確にすることを目標とする。また、11月に実施される「探究Day」への見通しも持たせる。

3. 本時の目標

- LIFEログを通じた継続的な自己省察(メタ認知能力):

ルーブリックを意識した振り返りを通じて、自身の考えや行動の変化に気づき、日々の学びを自らコントロールしようとする態度を養う。^[OBL]

- 探究プロセスの具体化と計画立案(論理的思考力・計画的実行力):

RQ、仮説、検証方法の論理的関係を理解し、先行研究等の事実・データに基づいた精度の高い探究計画をチームで策定できる。

- Webページ制作を見据えた見通しの獲得(表現力・先見性):

「RefNavi」を適切に運用し、収集した情報をチームで共有・蓄積することで、夏休み中の個人調査をチーム全体の学びに統合する基盤を構築する。^[OBL]

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:

- 授業スライド 第11回

- 使用教材(副教材):

- 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館

5. 本時の展開(100分:50分×2コマ / 中間休憩10分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	① 本時の内容説明とLIFEログ 本時の流れを確認し、LIFEログの意義を再確認する。	スライドを用い、単なる記録ではなく「成長につながる振り返り(レベル3)」を目指すよう促す。
10分	② 「LIFEログ」ワーク スクールタクトにアクセスし、1週間の学びや変化をタイトルと共に記録する。	静かに省察できる環境を整え、必要に応じて個別のアドバイスをを行う。
10分	③ 探究計画の理論学習(RQ・仮説) RQの具体化(どこ・だれ・何・いつ)や、事実・データに基づいた仮説の立て方を学ぶ。	スライドの事例を用い、「調べたらすぐ答えが出る問い」にならないよう注意を促す。
5分	④ 検証方法と夏休みの宿題の確認 仮説を検証するための「小さな調査可能な問い」への分解と、夏休みのミッションを確認する。	11月の「探究Day」ポスターセッションについても触れ、長期的な意欲を喚起する。
20分	⑤ 計画立案とRefNaviの設定(ワーク前半) チームで計画書の(1)～(4)の作成を進めながら、適宜RefNaviのカスタムタグを利用して文献を共有する。	・まず探究ノートに本時の活動内容を記録するよう呼び掛ける。 ・机間巡視を行い、RefNaviの「カスタムタグ(26中2総学-A01等)」が正しく設定されているか確認する。
10分	休み時間	

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【2時限目】		
50分	⑥ 探究計画のブラッシュアップ(ワーク後半) 担当教員への進捗報告を行い、指導を受けながら計画書の精度を高める。	各チームのRQ、仮説、検証方法が具体的かつ論理的であるかチェックし、チェック項目を達成できたら具体的な調査活動へのGOサインを出す。